

長崎っ子の心を見つめる教育週間

今日から「長崎っ子の心を見つめる教育週間」がスタートしました。この「長崎っ子の心を見つめる教育週間」は、平成15年に長崎市内で起きた痛ましい事件を契機として、翌年から長崎県内すべての公立学校でスタートしました。5月から7月までの一定期間、「命の大切さ」や「人を思いやることの大切さ」、そして「憧れや将来への志を持つこと」等について、普段以上に考えることを通して、皆さんが自分の心と向き合う機会として設定しています。

今日は、教育週間初日ということで、校長講話を行いました。Mrs. GREEN APPLEの「僕のこと」の歌詞を紹介し、「もし、今、いろんなことがうまくいかずに悩んだり、もがいたりしているとしたら、それはあなたが一生懸命生きている証だということ、一人で抱え込まず、周囲の人を頼ってほしい。」ということをお伝えしました。

この教育週間の期間は、すべての授業を公開しています。ぜひ、この機会に子どもたちの日頃の様子や本校の教育活動についてご覧いただければと思います。



長崎っ子の心を見つめる教育週間
キャラクター「ここぼん」

平和を願う食育

中総体に期末テスト、そして大雨の対応など慌ただしく6月も終わりを迎えています。ところで、毎年6月は食育月間なのを知っていますか？健康で心身ともに豊かな生活を送るには、健全な食生活や豊かな食文化の継承など、「食」に関する知識と「食」を選択する力を身に付けることが重要です。そこで国は「食育推進基本計画」を定め、平成18年から毎年6月を食育月間として、国、地方公共団体、関係団体などが協力して、全国的に食育に関する取組やイベントが行われています（ちなみに毎月19日は食育の日です）。

学校で行う食育については、やはり毎日の給食が担う役割は大変大きく、給食を通じて食の大切さや食事のマナー、地域の文化や伝統などを学ぶ大切な機会になっています。

6月23日の給食は、沖縄の郷土料理が並びました。豚肉やこんにゃくなどが入った沖縄の炊き込みご飯「クファージュシ」に「スルルーのフライ」、「スルルー」とは沖縄の言葉で「きびなご」のことだそうです。そして沖縄料理の代表「ゴーヤチャンプルー」に「もずくスープ」と食べ応えのあるメニューでした。なぜ、この日は沖縄メニューだったかということ、6月23日は沖縄慰霊の日だからです。

第二次大戦において沖縄ではアメリカ軍との地上戦が行われ、多くの命が失われました。この地上戦が終結したとされる6月23日は、沖縄慰霊の日とされています。きっと、私たちの8月9日と同じように、沖縄の方々にとっては平和を願う特別な一日だと思います。私たちは今、当たり前のように毎日おいしいご飯が食べられますが、戦争中はそうはいかなかったはずですね。食を通じて平和について考える機会になりました。今の平和がこれからも続くことを願い、給食や食事を当たり前のように食べられる毎日に感謝したいですね。

